

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、№1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。№1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。№1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報等のみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様に№1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。№1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

№1778長期継続変動 続報 Stage-29が示した 1/25に極大 1/25から Stage-30

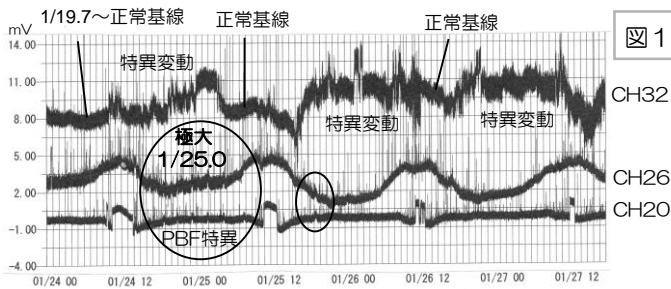


図1

- ◆前続報では2024.12/6極大に対し、2025.1/25に直前変動が観測された認識を報告しました。
- ◆ステージ29の2024.11/1.5極大に対し、2025.1/14にPBF特異が静穏化し、Tmap:Tpp=3.9:1 経験則から1/26±が計算され、示されました。
- ◆図1を参照下さい。1/19.7にCH32特異が静穏化しましたが、1/25.0中心に再出現したPBF特異出現時期から、再びCH32基線に弱い特異変動が出現しています。
- ◆これらを総合して鑑みますと、ステージ29が示した1/26±3に対し、1/25.0にPBF特異極大が出現した認識です。この極大からCH32に特異変動が継続出現している認識されます。つまり、1/25からステージ30になったという認識です。

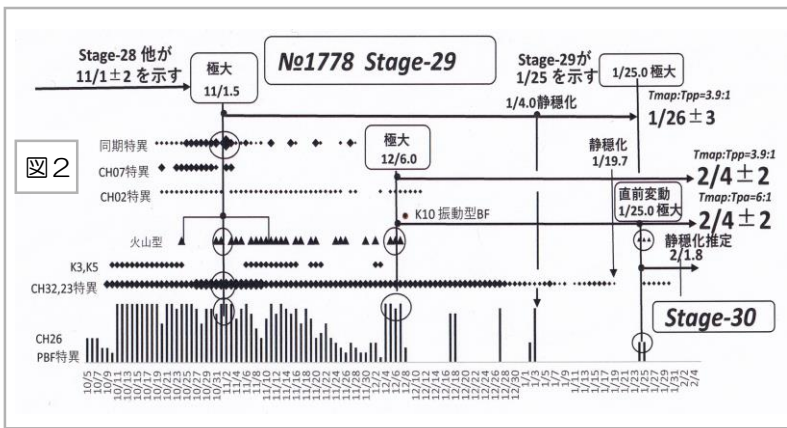


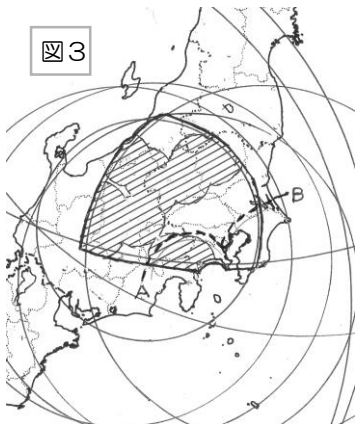
図2

2/4発生が正しい場合はCH32特異は2/1.8±1 静穏化推定 2/3時点で継続の場合は再考必要

◆前述認識が正しい場合は、1/25のPBF特異極大は、ステージ29が示したステージ30の極大であり、また2024.12/6極大に対する直前変動である可能性となります。以前にも同様な関係が現れたケースが№1778ではあります。2/4発生が正しい場合は1/25極大に対し、2/1.8±1に現在のCH32特異が静穏化することが計算されます。

2/3時点でCH32特異が継続 または 2/4±2に極大が出現しなければ、2月4日または5日に地震発生の可能性有

2/3～4時点での変動継続または極大出現の場合は続報させて頂きます。現状は2/4±2発生が否定されるものではないと思われます。



A~B弧線以南の可能性は低い

●推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域
図3斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkm
が合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい（今後噴火変動が観測された場合は続報予定）

●推定時期：2月4日±2（2月4日 又は 2月5日 の可能性考えやすい）
（※但し2/2迄にCH32特異が静穏化の場合に限る。2/3時点で継続または2/4±2に極大出現の場合は再考）

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）